

2 文教施設応急危険度判定調査表(鉄筋コンクリート造)

集計欄は数字で記入

EF-R C

整理番号 調査日時 月 日 午前・午後 時 調査回数 1 回目
 調査者 氏名 氏名
 立会者 氏名 氏名

整理番号
 判定順位番号
 施設台帳等整理番号 2

3	1
4	
地上	
地下	
6.1	
6.2	
7	

建築物概要

- 1 施設名称 1.1 建築物名称 職員室棟
 2 施設所在地 (TEL) 2.1 施設台帳整理番号 2
 3 建築物用途 1.校舎 判定順位番号
 4 構造種別
 5 階数 地上__階 地下__階
 6 建築物規模 6.1 建築面積 m² 6.2 延床面積 m²
 7 建築年(西暦) 年

調査 調査方法:(1.外観調査のみ実施 2.内観調査も併せて実施)

- 1 一見して危険と判定される。(該当する場合は を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

調査方法
 1

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 (<input type="text"/>)

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

判定	損傷度 以上の損傷部材の有無	Aランク	Bランク	Cランク
(1)		1. 無し	2. 有り	
判	隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
	地盤破壊による建築物全体の沈下	1. 0.2m以下	2. 0.2m~1.0m	3. 1.0m超
	不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/60以下	2. 1/60~1/30	3. 1/30超
	柱の被害 [下記 の調査階(被害最大の階) 階](壁構造の場合は柱を壁の長さを読みかえる)			
定	損傷度 V の柱本数 / 調査柱本数	損傷度 の柱総数 本 調査柱 本 (調査率 %)	柱の被害最大の階 階	
		1. 1%以下	2. 1%~10%	3. 10%超
	損傷度 の柱本数 / 調査柱本数	損傷度 の柱総数 本 調査柱 本 (調査率 %)		
		1. 10%以下	2. 10%~20%	3. 20%超
判定(2)		1. 調査済 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1の場合	3. 危険 Cランクが1以上又は Bランクが2以上
(2)				
危険度の判定		1. 調査済み	2. 要注意	3. 危険
判定(1)と判定(2)のち大きな方の危険度で判定する		(要内観調査)		

判定(1)

 判定(2)
 判定

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度(~ は内観調査時に実施する)

	Aランク	Bランク	Cランク
屋根・パラペット等	1.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.著しいずれ、一部落下
窓ガラス・窓枠	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	3.落下の危険有り
外装材	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間が見られる	3.顕著なひび割れ、剥離
看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜、移動	3.転倒、落下の危険有り
屋外階段・庇等	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜、移動	3.明瞭な傾斜
天井材・照明器具・吊り物等	1.ほとんど無被害	2.部分的なずれ、	3.落下の危険有り、一部落下
内装材・間仕切り	1.ほとんど無被害	2.目地ずれ、わずかな剥離	3.顕著なひび割れ、剥離
本棚・実験棚・屋内器具等	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜、移動	3.収容物の破損・飛散や転倒の危険有り
その他 (<input type="text"/>)	1.安全	2.要注意	3.危険
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

判定

総合判定(調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する)

1. 調査済(要内観調査) 2. 要注意 3. 危険

総合判定

コメント(構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

(参考)
 設備の被害状況

電気	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
給排水	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
ガス	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
通信	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
便所	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能
空調(暖房)	1.使用可能を確認済み	2.未確認または一部に支障有り	3.使用不可能